

昭和54年度 第4回シグマ研究委員会運営委員会議事録

日 時 昭和54年9月21日(金) 13:30～17:30
場 所 原研本部第35会議室
出席者 中嶋(法大), 関(MAPI), 松延(住友原工), 飯島(NAIG),
更田, 原田, 田中, 五十嵐, 菊池(康)(原研)
オブザーバ : 田村, 浅見(哲)(原研)

配布資料

1. 前回(54. 8. 20)議事録(案)
2. 1979核データ研究会——核構造・崩壊データ—
3. NEA Data Bank 将来計画に関する要求項目の一部
4. SEN/ DATA/M(79) 1
5. JENDL-2 Benchmark Tests(1)
6. 1980年原子力総合シンポジウムに対する提案

議 事

1. 前回議事録確認
2. 核データ研究会

田村氏から資料(2)により核データ研究会及びトレーニング・セミナーの概要について説明があった。今年の研究会は核構造・崩壊データを中心に行い、circular は本委員, 核構造・崩壊データ専門部会委員に限定して送付し、また、各WGリーダーにはWGの実情を勘案して参加方を検討するよう依頼した。なお、研究会の名称を「1979核データ研究会——核構造・崩壊データ—」とし、実行委員は世話人のうち原研の者(田中, 田村, 松本, 浅見(哲)各委員)とすることにした。

3. JENDL-2の進行状況

菊池委員から資料(5)により説明が行われた。8核種の群定数化を行いベンチマーク・テストを行ったが、結果がかんばしくなかったので中間ファイルをつくり原因を調べた。炉定数の立場からの改訂点をまとめた。これについて重核データ・サブWGで検討することになっている。JUPITER計画のために9月末までにデータを提供する予定であったが、2カ月遅らせて再検討することになった。

4. JENDL-3 構想

田中委員より将来の問題としてJENDL-3の方向を検討しておく必要があるとの発議があり討論を行った。主な意見は次のとおり。

- JENDL-2を完成させ利用することが先決。
- 核データセンターにある予算要求資料をたゞき台として出してもらい、必要に応じて検討小委員会をつくったらどうか。
- 予算獲得のためには、何故JENDL-3が必要であることを示す必要がある。
- 日本独自でやるのか検討する必要がある。
- ENDF/B-Vが公開されないとき、シグマ委として、利用者としてどうするか検討の要がある。

5. NEA Data Bank 将来計画

資料(3)をもとに五十嵐委員からData Bankへの要求項目について説明があった。また、更田委員より9月11日のWilliams氏との懇談に関して説明があった。討議を行った後、田中、更田、桂木委員でまとめて作文することになった。

6. WGの中間報告

五十嵐委員よりガンマ線生成核データWGの最近の作業について、また、リーダの北沢委員が本年11月より1年間海外出張で不在のため五十嵐委員がリーダを代行することが報告された。

田村氏より核構造データWGの近況について説明があった。

7. 学会2年報作業報告

飯島委員より、原稿が集り検討を行っていること。2年間の論文リストを付すことにした等の報告があった。

8. 原子力総合シンポジウム

松延委員から、資料(6)によりシグマ委から提案する内容の説明があり了承された。

9. 核データニュース

浅見(哲)氏より、前回の討議に引き続いて検討したことの中間報告があった。主な点は

- 「核データニュース」と「核データ専門誌」とは配布対象者が異なるので2本立てにした方がよい。
- 「核データ専門誌」の発行には、新たに財源を確保するか、有料制にする必要があるが、何れも多々問題があるので検討を行っている。
- 「核データ専門誌」は未公開扱いを考えている。

等であった。これに対して討議が行われ主な意見及び指摘点は次の通りである。

- 未公開では発行する意味がないのでは。
- 未公開でも若い人達には意味がある。
- 原研の予算で発行する場合には、種々の手続きが必要である。
- 発行に当ってはアンケート等で多くの人の意見を聞く必要がある。
- 総論としては賛成であるが、個々には多くの問題がある、等々。

これらの討議をもとに、いくつかの案及びそれぞれの問題点を整理して改めて審議することになった。

10. その他

松延委員より、来年春の学会でJENDL-2の総合講演を考えるか検討しておいて欲しいとの発言があった。

次回は10月22日(月) 原研東海研(13:30より)で行う予定。